

# 丸亀城管理室だより № 9

令和 3年 4月 23日

## 今年度の主な工事

丸亀城石垣崩落復旧整備事業は5カ年での復旧を目標に掲げ、工事を進めています。令和3年度は事業が始まり3年目の折り返しの年です。年内に帯曲輪の解体を終了し、その後ただちに石垣の積み直しを行います。

えぼし石垣、帯曲輪石垣の解体を進め、根石(石垣の築き始めの第一石)の状態がわかるまでが勝負です。崩落石と切り崩し土による不安定な場所ですが、安全に配慮し、工事を進めます。



### 【石垣解体工事】

- えぼし石垣(南西角)と帯曲輪石垣(西面、南面)の高さをあわせながら、同時に解体します。

### 【斜面安定化工事】

- 石垣を解体しながら、背後の盛土を掘削していきます。掘削法面の斜面を安全に保つため、グラウンドアンカーを打設します。

### 【崩落石材回収工事】

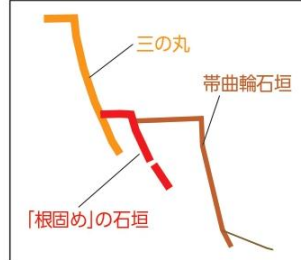
- 斜面の安定状況を確認しながら、石垣の解体と同時に崩落している石材も回収します。



【崩落石材回収とグラウンドアンカー削孔の様子】

## 帯曲輪の解体に着手

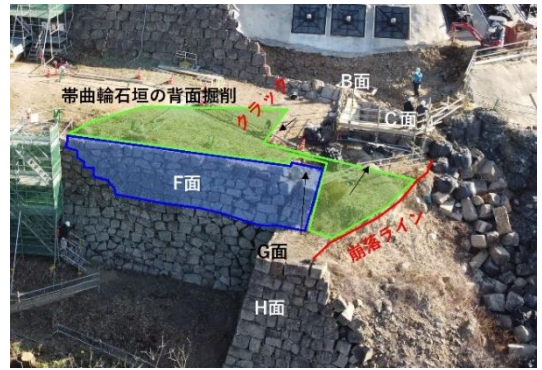
帯曲輪西面石垣(F面)の解体が始まりました。F面の解体では、同時進行で三の丸の根固め石垣の調査・解体をしなくてはなりません。三の丸の根固め石垣は、地中部に埋もれていたため原構造についての情報が乏しい場所です。解体を進めながら復旧設計に必要な構造把握に努めます。



【三の丸坤槽跡石垣の構造】



【三の丸坤槽跡西側基部】



【帯曲輪F面(西側)の様子】

帯曲輪F面の解体により現れた三の丸の下段は石材の割れが目立ち、崩落の衝撃による破壊のすごさを感じました。



この割石は、三の丸西面石垣28段目の築石です。元の形がわからないくらい粉々に割れています。

## 120tクレーンがやってきた!

海拔34m付近からの帯曲輪は、西面から南面に大きく広がっており、同時に作業ができることから、作業効率を高めるため、120tクレーンを追加投入しました。

追加投入したクローラークレーンは、作業半径60mで1.6t、作業半径54mで3.0tの石を吊り上げることができます。

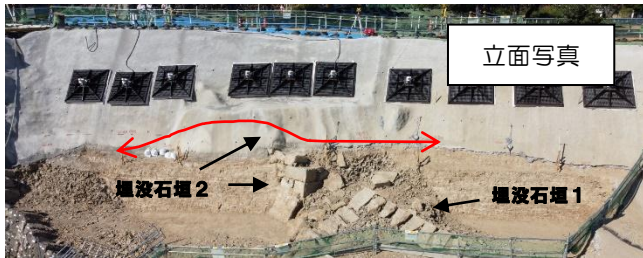




## 土層の変化

三の丸石垣の解体工事中、斜面の盛土の積み上げ方に変化が見られました。線画を見るとわかるように、埋没石垣2の上端から斜め方向に下がる赤いラインを境に厚さが変わっています。

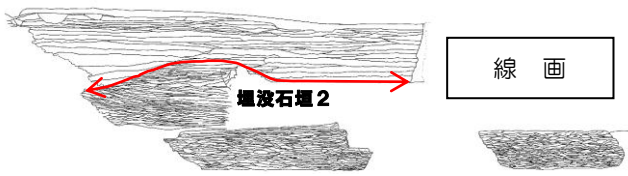
この変化点は、三の丸西面石垣の7段目からとなっており、7段目からは「栗端止(ぐりはと)」と呼ばれる、栗石より一回り大きい石が検出されています。



立面写真

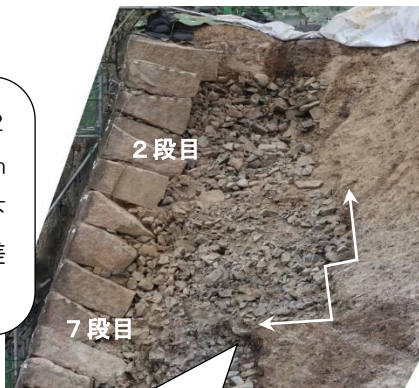


オルソ写真



線画

盛土の変化は、埋没石垣2より上で、厚さ40cm以上、埋没石垣2より下で、厚さ5~20cmの差が見られました。



栗端止が面をもち、階段上に積まれているのがわかります。

栗端止は、三の丸西面石垣(A面)の2段目から7段目の範囲で確認された遺構です。栗石と同じ安山岩を使用し、栗石層と盛土の境界に面を形成して積まれていました。同様の構造は、丸亀城北東部の石垣解体時にも確認されています。



栗石を覆うように積まれた一回り大きい石の層が「栗端止」と呼ばれる石積みです。

## 丸亀城の開花宣言

暖かくなり、全国的に桜の開花宣言がされるなか、丸亀城にも開花のたよりが届きました。観光案内所東側の「開花基準木(ソメイヨシノ)」に5輪以上の花が咲き、3月17日 開花を確認しました。



【昨年よりも1週間早い開花宣言になりました。】

## ヒマラヤスギ

石垣復旧工事現場内にある「ヒマラヤスギ」をご存じですか？名前に「スギ」とついていますが、「マツ」の仲間です。ヒマラヤスギのまつぼっくりは、バラの花のような形をしており、「珍しいから石垣復旧PR館に飾って」と、工事現場の方が拾ってきてくれました。

お城のおばあちゃん(十河さん)がヒマラヤスギの絵手紙を描いてくださり、PR館に出会いの花が咲きました。



ヒマラヤスギは搦め手門と石垣復旧PR館の間の工事現場内にあります。



## オリンピック聖火リレー

新型コロナウイルス感染症により、大会同様延期されていた聖火リレーが、4月17日実施されました。猪熊弦一郎現代美術館を出発した聖火が、ランナーの皆さんの手によって、丸亀城本丸に届けられました。



作成：丸亀市教育部 文化財保存活用課  
丸亀城管理室 TEL0877-23-2107